「ジャコビニ電話番」日記

畑　中　至　純*

10月2日（月曜日）

ジャコビニ流星群に関する質問電話があまり頻繁にかかってくるので，いいかげんいやになってくる．質問電話のかかってくる順序からすると，われらの部屋は東京天文台天体掃索部のなかでは3番目のはずである．言わんや1番目，2番目の部屋においておやであろう．

電話がどのぐらいかかってくるものか数えてみたら，記録をとる楽しみが電話恐怖症を少しは癒してくれるのではなかろうかと，ジャコビニ質問電話の回数を皆んな（わが部屋の住人は4人）で記録しはじめる．

東京天文台では，夜間における天体発見などの電話・電報を取扱うために，毎夜1名のものが電話のかかってくる部屋に宿泊することになっている．ジャコビニ流星群の出現が予想される10月8日の夜は，特に1名ふやして，2名のものがこの任につくことになっていた．そして，幸か不幸か，小生がそれを仰せつかっていた．このような訳で，この日記は10月8日の夜まで続くことになっている．　午後だけで質問電話 20 回．

10月3日（火曜日）　12回．

10月4日（水曜日）

ジャコビニ質問電話の最良の撃退法は部屋にいないことである．部屋にいても電話をとらなければよいのであるが，現代人の悲しき習性は私をして電話のベルを放置せしめない．

質問では，流星雨がいつ・どこで見えるとかというものが多い．　午後だけで10回．

10月5日（木曜日）

昨日，東京天文台の古畑台長が記者会見をして，「ジャコビニ流星群の見方」を発表．これは毎日新聞朝刊記事により知ったが，紙上にはその内容がくわしく載せられていた．見ごろの時間――？　見よい場所――？　空のどこに――？　写真撮影は――？　流星の数は――？これらはジャコビニ流星群に関する質問をほぼ網羅していた．したがって新聞に載った東京天文台の回答は，そのままわれらの電話解答の見本となりえた．また，「ジャコビニ流星群について」（一般的な質問に答えて）なる天文台内部の想定問答集とも思える一枚のゼロックス・コピーの内容とも一致していた．

電話での質問の答え方には「今朝の毎日新聞をごらん下さい」という手もできた．試みてみたが，素直に「そうしてみます」と言ってくれる人はいない．電話をかけた以上，どうしてもその場で答えを欲しているのだろうか．活字の方が情報を正確に伝達すると思うが．9回．

10月6日（金曜日）　17回．

10月7日（土曜日）

電話の回数が随分ふえたようだ．　午前だけで16回．

10月8日（日曜日）

日中は晴．夜は曇，ときどき一部だけ雲が薄くなる．

後に述べる質問電話の内容とも関連してくるが，各紙朝刊には今夜のジャコビニ流星群のことがどう扱われているだろうか．勿論，新聞はこれまでにジャコビニに関する記事を何度も載せていたのであるから，内容的には重複していたにちがいない．しかし，読者へのサービスとしては当然のことであるし，ジャコビニ流星群を見たいと思う人達にとっては，最も手近かな情報となりうる．

世紀の流星ジャコビニ今夜日本の空に（毎日）
ジャコビニ情報最終版（朝日）
きょう“星降る夜”（読売）
北西から全天に（日経）

これらはいずれも社会面の記事であり，流星雨をみる手引として十分なものに思われる．どれか一紙を読めば，天文台へ電話をかけてきくことは何もないとさえ思われる．

定められた通り，夕方5時から宿直室で電話番をはじめた．日中の勤務者が受けたジャコビニの質問電話は，回数が記録されていて，一時間に 20～30 回．ところが5時から6時までの一時間に回数は倍増して64回となった．覚悟はしていたものの，内容から見れば，ちょっと新聞を見ればすむことばかりで，テープ・レコーダーを使ってあらゆる電話にジャコビニ流星群の一般的説明を流して，人間の代わりをさせても十分と思える．

この夜の東京天文台の電話は3本しか通じていない．しかも3本目は「こちらは東京天文台です．ただ今，係

* 東京天文台

員が別の電話に応答中です．しばらくしてからかけなおして下さい」という美しい声が録音テープに吹きこんであり，30秒に1回ずつ働くようになっている．残った2本が，測光部の田鍋さんと小生にかかってくる．

午後6時から7時の間に，70回．2本の電話はほとんど休みなし．こうなると，食事をするひまはない．様子をみるために立ち寄った小野さんが，見るに見かねて助けてくれる．

あたりが暗くなる頃から曇り出して，何度外へ出て空を仰いでも，星一つ見えない．電話番としては曇った方が気が楽なのかもしれない．星が見えるかどうかを気にしなくてよいから．

午後7時から8時の間は，99回．

午後8時から9時の間は，77回．

そして，9時から10時の間には，遂に百の大台にのせて，105 回．こうなると，1台の電話で，1通話1分の勘定．質問はあいかわらず「ジャコビニ流星はなん時頃見えるのでしょうか？」，「どの方向に見えますか？」の2つがほとんどをしめる．質問者の男女比は，3:1 程度で男性が多い．

10時から11時の間は，103 回．この頃から，質問の内容が変わってきた．「今いる所は曇っているので，車で見える所まで行きたいが，どこへ行ったら見えるでしょうか？」の類が多くなってきた．一方，電話は東京都内はおろか，全国各地からかかってくるので，どの辺が晴れていて，どの辺が曇っているかがわかって来た．東京・神奈川あたりは駄目．千葉，北関東，東北と北へ行くにつれて天候がよくなっているようだ．

電話の回数は測光部の森さんと田中さんに数えていただいている．小生，いたずら気をおこして，かかってくる電話の質問内容を記録しはじめた．もちろん，全部ではない．面白いのは，応答も書くことにした．はじめたのは11時頃から．

＊「もしもし，天文台ですか？」
「はい，東京天文台です」
「どうですかね？　見えますかね？」
＊「観測は絶望的ですか？」
＊「まだやってませんか？　むりですね．予定はなん時頃ですか？」
＊「流星雨はなん時頃から見えすか？」
＊「いまジャコビニ流星雨は見えていますか？」
＊「都内は曇っています．どの辺まで行けば晴れていますか？」
＊「流星群は東京で見えますか？　晴れる可能性はありませんか？」
＊「星がありますか？」
「？？？」
＊「天気はどうでしょうか？　夜現われる星がありますか？」
「？？？」
＊「流星はどの辺に見えますか？」
＊「東京から出まして，どこへ行けばいいでしょうか？」
＊「相馬（福島県）から，ジャコビニ流星群の観測を報告します．こちらはお天気がよく，流星はかなり出ています」
「1分間に何個ぐらいですか？」
「11時10分から30分までの間で，1分間に20個ぐらい」
「随分出ていますね．何等ぐらいですか？」
「2等ぐらいです」
（この電話は吉報第1号であったが，後になってみると，1分間に 20 個は聞き違いなのかもしれない．）
＊「こちら川崎なんですが，星は見えないのですか？」
＊「なん時頃から見えますか？」
＊「どこへ行ったら見えますか？」
「今から東京を出ても間に合いませんよ」
＊「雲がありますが，写真ではうつりませんか？」
＊「流星が雲をつっきってくることはないでしょうか？頭の上に落ちてきませんか？」
＊「彗星なんですが……」
「彗星じゃありません．流星ですよ」
＊「山形からかけていますが，いま流星が見えました」
「だいぶ見えますか？」
「ええ，アッ，また見えました」

この辺で12時になった．東京天文台の上空は雲におおわれ，ときどき雲の薄いところに星が一つ二つ見える．予想されたピークの時刻が近づいたから，屋上へ行って我々も見物しながら，応答をすることにした．宿直室の電話が，屋上に仮設された電話に切り換えられた．空を見上げながら，「はい，東京天文台です」と応じていた．

11時から真夜中の12時の間は，115回．質問者の性別はほぼ半々．質問の内容は多岐にわたってきた．

＊「レーダーでは見えませんか？」
＊「流星まだ見えないのですが，時間が間違っているんじゃないでしょうか？」
＊「今晩，観測できたでしょうか？」
＊「さっきから，一杯飲んで待っているんですが，出ませんか？」
＊「天文台にある望遠鏡では見えないんですか？」
＊「こちら和歌山ですが，まだ見えないんですか？」
「お天気がよかったら，もう少し空を見ていて下さい」
「それが，空を見るわけに行かないんです」

「？？？」
「仕事で見られないんです．あなたと同じ仕事をしていて見られないのです」
「？？？　あなたは電話交換手さんですか？」
「ええ，そうです」
「それはご苦労さまです」
（実際，この夜の電話交換手さんは大変だったようだ．東京天文台の電話番号をたずねる人，沢山の人が電話をかけるため何度かけても通じないと言って文句を言う人．これではたまらない．）

ここで1時．ピークを過ぎたようだが，空を仰いでも流星雨が雲の上で現われている気配はない．

12時から1時の間は，107 回．流星は出ないが，電話の回数は依然として減らない．1時を過ぎると，電話の会話はあきらめムードがいっぱい．屋外は寒く，日中と同じ服装にコートを引っかけたぐらいでは震えがくる．

＊「ジャコビニ彗星はでていないですか？」
＊「なん時頃までみられるしょうか？　あきらめた方がいいでしょうか？」
＊「今日の星は見えないでしょうか？」
＊「もしもし，こちら水戸からかけているのですが，流星はどうなのでしょうか？　子供がまだ起きているんです」
＊「12時からずっと見ているんですが，駄目なのでしょうか？」
＊「子供達が楽しみに見ているんですが，東京地方は駄目ですね」
＊「銚子ですが，12時から見ているが見えない」
＊「全然見えないんですよ．明日と言うわけにはいかないのでしょうか？」
「はい，明日と言うわけにはいきません」
「そうですか．今日だけと言うわけですか」
＊「何か情報はないですか？」

1時半になっても以上のような有様．敗色濃し．質問者の性別は逆転して，女性の方が多い．

＊「長野県なのですが，流星が見られないのは，どう言うわけですか？」
＊「流星はもう終わったのでしょうか？」
＊「流星雨は見えたのでしょうか？」
＊「流星雨はどうでした？」
「どうも出なかったみたいですね」
「天文台で駄目なら，我々では駄目なはずですね」
「？？？」
＊「静岡県浜松です．晴れているのに出ないです」
＊「明日は駄目でしょうね」
＊「なん時頃まで可能性がありますか？」
＊「東京天文台です」
「アッ，やっとかかった」
「何回ぐらいかけたの？」
「40回」
「！！！　どうもご苦労さま」
「水戸市なんですが，1時頃から見ていても流星が出ないんです」
「そちらは晴れていたの？」
「晴れてた，晴れてた．今でもすごい星」
「福島県あたりでは，11時すぎに少し見えたと言ってきたよ．その頃は見なかった？」
「エッ，11時？　アーア，起きていたのに」
＊「三鷹の気象台ですか？」
＊「千葉ですが，1時16分に2個見ました．竹箒のように途中から散ったんです」
＊「千葉県習志野市で9時10分に流星1個」
＊「千葉県市川市で観測したのですが．かんばしくない」
＊「天文台の方はよく見えたのですか？」
「三鷹は曇って全然駄目でした」
「ご苦労さまでした」

2時10分すぎ，屋上での観望をあきらめて，宿直室へ戻る．

1時から2時の間は，97回．やや減って来た．ほとんどは凶報である．

＊「こちら兵庫県の者ですが，10時から見ていて何も見えない．一体どうなっているのですか？」
「期待されたほどには出なかったようです」
「専門的なおたく達にも，期待はずれと言うことがあるのですか？」
＊「兵庫県淡路島で，11時から見ているが，駄目ですね」
＊「茨城県の勝田市ですが，12時半頃から大騒ぎしているんです．家は飲食店なものだから，お客さんが50人ほど集まって，道路に椅子を持ち出して，空を見ながら，ビールを飲みながら，賭をしながら見ていたのですが，全然出ないんですね．もう駄目なんでしょうか？」
「これからは出ないでしょうね」
「そうですか．それではやけ酒でも飲みますか？」
「またもうかりますね」
「アッハハハ．それから，皆んなでしゃべっていた結論は，星がしゃべるわけではないんだから出なくても仕方がない，と言うことでした．勝田の結論として，記録してて下さい」
＊「墨田区で2時30分に流星1個見ました．15人で観測をやっていたのですが，そのうち4人だけが見ました」

＊「流星はなん時頃に見えますか？」
（流星雨が出現しなかったからよさそうなものを．それにしても遅すぎる．）
＊「苫小牧で観測しました．１分間にだいたい３個位．１時半頃に多いようでした」
＊「蒲田で１時間に 3～4 個です」

ここで３時になった．

２時から３時の間は，50回．ぐーんと減った．ところが叱責の電話がはいってきた．

＊「相馬から報告します．ジャコビニ流星１分間に2～3個です」
＊「ジャコビニ流星は，もう終っちゃいましたか？」
＊「山形県上山で９時から３時まで観測しました．合計26個です」
＊「１時半まで見て寝たのですが，その後晴れましたか？」

３時から４時の間は，16回．

４時から５時の間は，３回．明け方近くは，女性の質問者が多い．さすがに女性は耐久力に富む．

ジャコビニ流星雨は，遂に不発に終わったようだ．流星にとりくんでいる研究者の垂涎の機会は去ってしまった．大山鳴動して鼠一匹．マスコミ笛吹けど，ジャコビニ踊らず．５時就寝．

補　足

ここに記した電話対話のかずかずは，たまたま記録できたものの中から重複しないように，選んだものである．40回かけて，やっとかかったと言った少年がいたことから，天文台と対話することがどんなに大変であったか．多くの人が「何度かけても，つながらない．勝手にしろ」と言って，あきらめたことだろう．この程度の質問内容では，１通話，平均１分が限度のように思える．話は後のことになるが，東大宇宙研が三陸で放った気球が，10月13日の夕方，東京地方で見えたときのこと．夕日を受けて色が変化したり，肉眼でもはっきり見えたりしたため，怪天体騒ぎがもち上がり，夕方５時半頃から，東京天文台の外線直通電話はベルが鳴り通し．そのうちの一本の電話のそばに，たまたまいて，これを受けて答えたら，１時間にちょう度100回．「光っているのは，気球ですよ」と答えればよいから，１通話40秒弱ですんだのだろう．

ジャコビニ電話で，８日夜，私の受けたうちの最北は北海道苫小牧．最南にして最西は九州の佐賀．内容は前述の通りで，玉石混淆．流星を見たという報告でも，その流星がジャコビニ流星であるか散在流星であるかは電話ではわからない．

ジャコビニの電話番をしたのは，私一人でないことは確かで，東京天文台に限っても日中は主に天体掃索部員と測光部員，夜は「天体発見電話・電報の取り扱い業務」に勤務して泊っている人達である．後者の勤務日誌から抜粋してみよう．

10月４日，５日，６日の夜は，ジャコビニ質問電話約40件．

10月７日，電話なり続け，数えず．最後２時すぎ，翌朝１番は５時．

また，８日の日直者の記録をうつしてみる．

10月８日，日中の電話回数記録．８時半～11時：約50回，11時～12時：19回，12時～13時：23回，13時～14時:19回，14時～15時：21回，15時～16時:20回，16時～17時：34回．

新聞紙上にみる後始末

10月９日朝刊の各紙を拝見しよう．

星は降ったがチラホラ　ジャコビニ流星雨　（朝日第一面）
“星降るロマン”は雲の上　あーあ骨折り損かぁ　（朝日社会面）
「宇宙ショー」肩すかし　ジャコビニ流星　（毎日第一面）
「流星はどこ？」眠れぬ夜　（毎日社会面）
ジャコビニの一喜一憂　（読売社会面）
ジャコビニの夜肩すかし　流星雨ついに現われず　（日経社会面）

記事の占める量は，ここにあげた社の順序に小さくなっているようだ．

追って，10月９日の夕刊になると，

幻だった流星ショー「星くず少なかった」　（毎日）
“星占い”はニガ手？　天文台　（朝日）
ジャコビニ不発　罪な一夜　（読売）

毎日は出なかった理由を詳しくのせ朝日は，天文台を皮肉り，読売は誰がわるいとも言っていない，そんな印象をうけた．

× × × ×

× × ×